

## シラス干しからみた海の生き物（体験チリメンモンスター）

平成 22 年 10 月 23 日、赤磐市神田沖の岡山県農林水産総合センター（総合センター）で総合センターフェア「岡山の自然の恵み再発見！」が開催された。この催しは、総合センターの活動内容や成果を広く県民に知っていただき、農林水産業への関心と理解を深めていただくため、農業大学校収穫祭と同時開催された。当日は研究所の開放のほか、屋外に約 30 のテント村が開設され、野菜や果樹等の栽培技術や営農相談、稲刈り、木工加工品の作製、アイスクリーム作り等、様々な展示と体験イベントが実施され約 3,000 人が訪れた。

水産研究所からは「シラス干しからみた海の生き物」と題して、体験チリメンモンスターを出展した。スーパーマーケットなどで「シラス」や「チリメンジャコ」として売られているものの多くはカタクチイワシの子供で、ごく小さな魚を平らに広げて干した様子が、細かなしわをもつ絹織物のちりめんを広げたように見えることからこの名前がついたと言われる。また、シラス干しにはイカやエビ、カニなど姿形が奇抜な様々な生物が時折混ざっており、これらはチリメンモンスターと命名されている（きしわだ自然資料館の登録商標）。

水産研究所の職員から説明を受けた参加者は、さっそくシラス干しに混ざったチリメンモンスターを探し始めた。チリメンは岡山県近海で10月上旬に船びき網という漁法で漁獲されたもので、カタクチイワシ以外に、タチウオ、テンジクダイ科、アジ科、カワハギ類、タツノオトシゴ、シャコ、エビやカニの幼生、イカ、タコなど様々な生き物が見つかり、参加者は興味深げに見入っていた。

カタクチイワシをはじめ多くの生き物が私達の食料になっているだけで



水産研究所のコーナー



チリメンモンスター探し



チリメンモンスターの観察

なく、サワラなどの魚食性魚類の餌としても重要で、瀬戸内海の生態系の中でも大切な役割を果たしている。チリメンモンスターを通して、海の生き物の持続的な利用と瀬戸内海の生態系保全の重要性を考える一日となった。

(開発利用室)



チリメンモンスターの一例